



NEC Express5800 シリーズ

HostRAID™

SCSISelect Utility

操作説明書

2003年2月 第1版

856-122834-001-A

商標について

Microsoft、Windows、Windows NT、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Adaptec とそのロゴ、HostRAID、SCSISelect 及び Adaptec Storage Manager™- Browser Edition、HostRAID™は米国 Adaptec, Inc. の登録商標です。その他記載の会社名及び商品名は各社の商標または登録商標です。

ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3)NEC の許可無く複製・改変などを行うことはできません。
- (4)本書は内容について万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5)運用した結果の影響については(4)項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

© NEC Corporation 2003

目次

第1章	ご使用前に	1
1.1.	はじめに	1
1.2.	SCSI Select Utility の機能	1
1.3.	注意事項	2
第2章	アレイの作成手順	3
2.1.	アレイを新規に作成する場合	3
2.2.	ハードディスクの追加を行なう場合	3
2.3.	アレイ構成を変更する場合	3
第3章	SCSI Select Utility の使い方	4
3.1.	起動方法	4
3.2.	終了方法	5
3.3.	HostRAID 設定方法	6
3.4.	メインメニューの表示について	8
第4章	アレイの作成	10
4.1.	事前確認	10
4.2.	RAID 0 アレイの作成	12
4.3.	RAID 1 アレイの作成	13
4.4.	RAID 10 アレイの作成	15
第5章	アレイの削除	17
第6章	スペアディスクの作成	18
第7章	ブートプライオリティ指定	19
付録	トラブルシューティング	20

第 1 章 ご使用の前に

1.1. はじめに

SCSISelect Utility は、BIOS ベースのユーティリティです。HostRAID の設定を有効にした場合アレイを作成することができます。

本書では、HostRAID を有効にし、アレイを作成する場合の SCSISelect Utility の使用方法について説明します。



チェック: OSをインストールするためには、AdaptecHostRAID Driverの入ったFDが必要です。

1.2. SCSISelect Utility の機能

SCSISelect Utility には次の機能があります。

(1) HostRAID 設定機能

アレイを作成するために、HostRAID 設定を Enabled にする機能です。

(2) アレイの作成機能

次の RAID レベルのアレイを作成できます。

RAID0 : データのストライピング。ハードディスク 2 ~ 4 台で構成可能

パフォーマンスは向上しますが、冗長データがないためアレイを構成するハードディスクに障害が発生した場合は、データ復旧ができません。

RAID1 : データのミラーリング。ハードディスク 2 台で構成可能

アレイを構成するハードディスクに障害が発生した場合にも、データ復旧は可能です。

データ容量は、構成するハードディスクの容量の小さい方のディスクと同じ容量になります。

RAID10 : ミラーリング + ストライピング。ハードディスク 4 台で構成可能

アレイを構成するハードディスクに障害が発生した場合にも、データ復旧は可能です。

データ容量は、構成するハードディスクの一番容量の小さいディスクの 2 倍になります。

スペアディスク : チャンネルあたり 1 台のみ設定可能

RAID1 または RAID10 に対して、スタンバイリビルドが可能になります。



チェック: 1チャンネルあたりのデータディスクの台数は4台までです。1チャンネルあたりに作成可能なRAIDの組み合わせは次のようになります。

- 2台、3台、4台のハードディスクによるRAID0が1個
- それぞれ2台のハードディスクによるRAID0が2個
- 2台のハードディスクによるRAID1が1個
- それぞれ2台のハードディスクによるRAID1が2個
- それぞれ2台のハードディスクによるRAID0が1個とRAID1が1個
- 4台のハードディスクによるRAID10が1個

(3)Rebuild 機能

メニューで選択可能ですが、**本機能は絶対に使用しないでください。**

Rebuild 中にエラーを検出すると、アレイそのものを使用できなくなる恐れがあります。アレイを構成するハードディスクが故障して、Rebuild を実施する必要がある場合は、次のいずれかの方法で実施するようにお願いします。

OS 起動後の故障ディスクの活線挿抜によるホットスワップ&オートリビルド

ホットスペアによるスタンバイリビルド

(4)Verify 機能

メニューで選択可能ですが、**本機能は絶対に使用しないでください。**

Verify を実施する必要がある場合は、必ず ASMBE を使用してください。

1.3. 注意事項

SCSISelect Utility には次のような注意事項があります。

HostRAID 設定を Enabled にした場合は、ハードディスク以外は接続できません。

アレイを設定した後は、必ず Build 処理を終了させてください。Build が終了しないと OS からアレイが認識されません。

SCSISelectUtility では次の機能をサポートしていません。これらの機能を有効/使用する場合は、必ず HostRAID 用ドライバおよび ASMBE をインストールした OS 上で実行してください。

- ・ ディスク LED 制御機能
- ・ ホットスワップ&オートリビルド機能
- ・ スタンバイリビルド機能（但し、スペアディスクの設定は本ユーティリティで可能です）

Rebuild および Verify は SCSISelectUtility のメニューから選択可能ですが**絶対に使用しないでください。**

SCSISelectUtility を起動すると、POST 終了後 “ Boot Selection Menu ” が表示されます。

本ドキュメントは、SCSI BIOS バージョン 41019S を対象としています。

第2章 アレイの作成手順

本章では SCSISelect Utility を使ったアレイの作成方法に関する手順を説明します。

2.1. アレイを新規に作成する場合

初めて SCSISelect Utility を使用してアレイを設定する場合の手順を示します。

- SCSISelect Utility の起動 (3.1 章参照)
- HostRAID の設定変更 (3.3 章参照)
- Configure/View HostRAID Settings でのアレイの作成 (4 章参照)
- スペアディスクの追加 (6 章参照)
 - スペアディスクを設定しない場合は必要ありません。
- SCSISelect Utility の終了 (3.2 章参照)
 - HostRAID の設定を変更した場合は、必ずここでリブート処理が入ります。

2.2. ハードディスクの追加を行なう場合

ハードディスクの追加は、主にアレイを追加作成する場合とスペアディスクを追加する場合が考えられます。既に存在しているアレイを破壊しないよう注意が必要です。

2.2.1. アレイを追加する場合

- 電源 OFF 時にアレイを作成するハードディスクを追加
- SCSISelect Utility の起動 (3.1 章参照)
- 追加ディスクを使用してのアレイの作成 (4 章参照)
- SCSISelect Utility の終了 (3.2 章参照)

2.2.2. スペアディスクを追加する場合

- 電源 OFF 時にスペア用のハードディスクを追加
- SCSISelect Utility の起動 (3.1 章参照)
- スペアディスク設定 (6 章参照)
- SCSISelect Utility の終了 (3.2 章参照)

2.3. アレイ構成を変更する場合

現在のアレイをクリアして新たにアレイを作成する場合の手順を示します。

- SCSISelect Utility の起動 (3.1 章参照)
- Configure/View HostRAID Settings でアレイの削除 (5 章参照)
- Configure/View HostRAID Settings でアレイの作成 (4 章参照)
- スペアディスクの追加 (6 章参照)
 - スペアディスクを設定しない場合は必要ありません。
- SCSISelect Utility の終了 (3.2 章参照)

第3章 SCSISelect Utility の使い方

ここでは、SCSISelect Utility の基本操作について説明します。

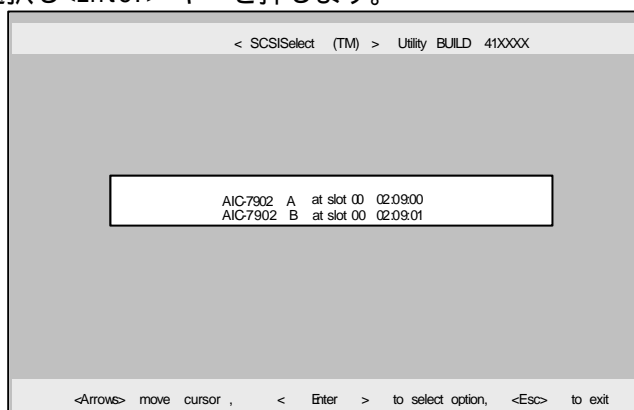
3.1. 起動方法

SCSISelect Utilityを起動するには、以下の手順に従います。

- (1) システムを起動、または再起動したときに以下のメッセージが表示されたら、<Ctrl><A> キーを同時に押します。

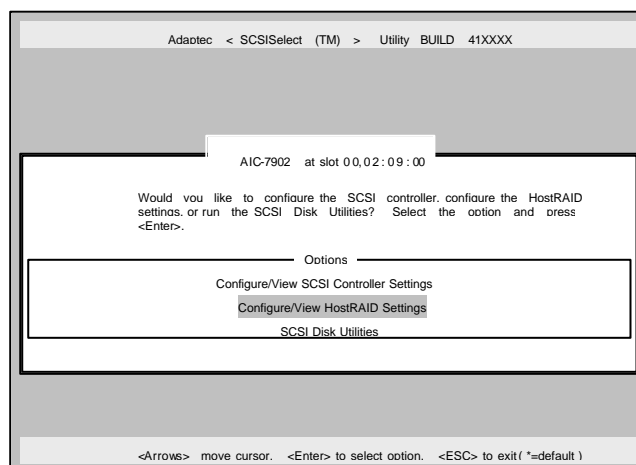
Press <Ctrl><A> for SCSISelect (TM) Utility!

- (2) チャネルを選択し<Enter> キーを押します。



- (3) Options メニューが起動されます。

Options メニューで、[Configure/View HostRAID Settings] を選択し、<Enter>キーを押します。



重要

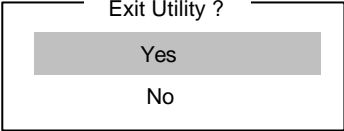
[Configure/View HostRAID Settings] が表示されていない場合は、HostRAID 設定を Enabled にしてください。 HostRAID の設定方法については、3.3 章を参照してください。

[Configure/View HostRAID Settings] のメインメニューの情報内容については、3.4 章を参照してください。

アレイの作成方法については、4 章を参照してください。

3.2. 終了方法

SCSISelect Utility を終了するには、次のメッセージが表示されるまで <Esc>キーを押します。
[Yes] を選択してユーティリティを終了します。



Exit Utility ?

Yes

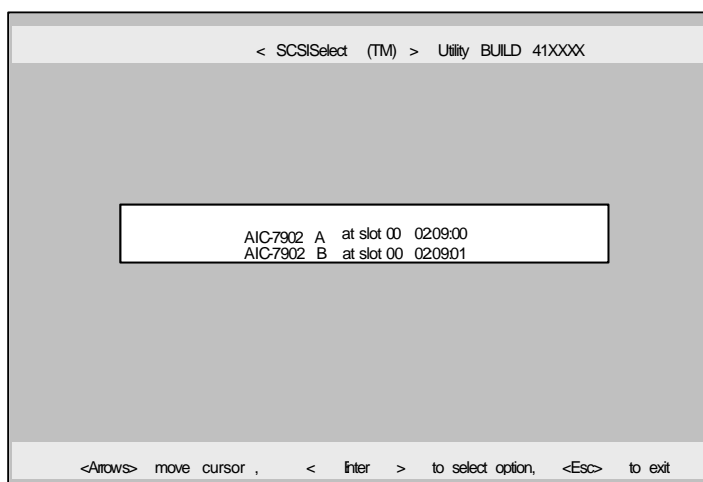
No

A dialog box with a title bar "Exit Utility ?" and two buttons: "Yes" and "No". The "Yes" button is highlighted with a grey background.

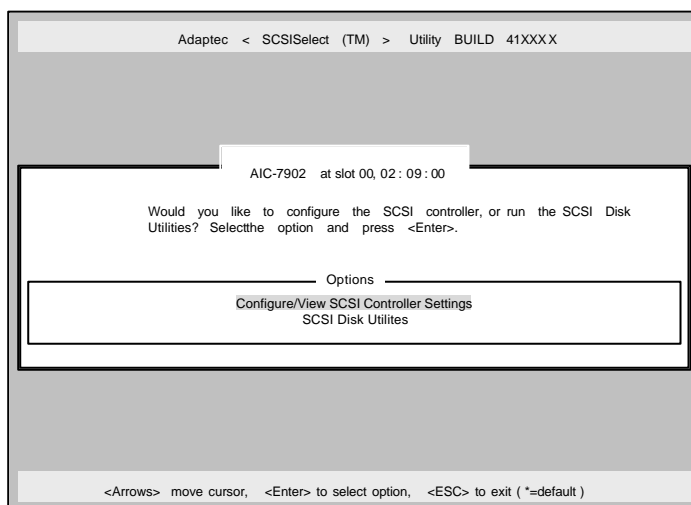
3.3. HostRAID 設定方法

アレイを作成するためには、HostRAIDをEnabledにしておく必要があります。
以下の手順で設定を変更します。

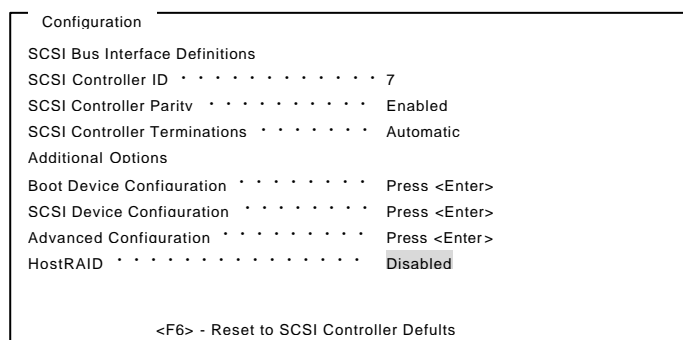
- (1) SCSISelectUtilityを起動し、HostRAIDを設定するチャンネルを選択し、Options画面を開きます。



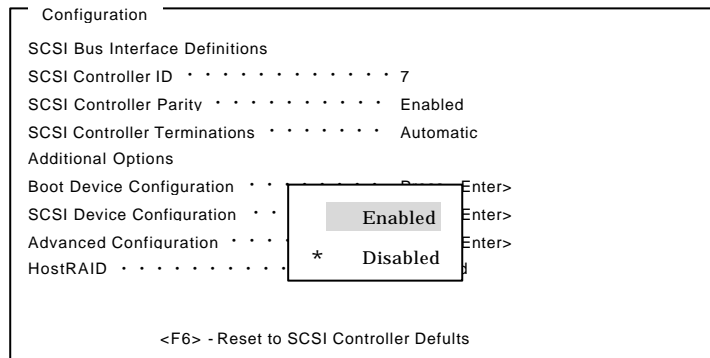
- (2) [Configure/View SCSI Controller Settings] を選択し、<Enter> キーを押します。



- (3) ConfigurationメニューにてHostRAIDの[Disabled]で<Enter>を入力します。



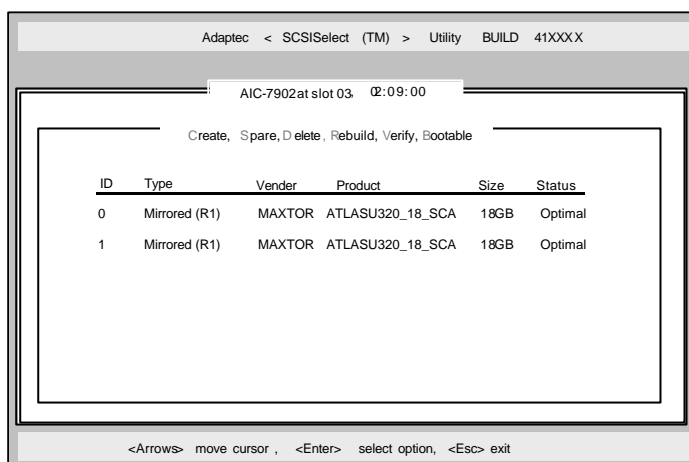
(4) [Enabled]に変更します。[Save Changes Mode?] と表示されたら、[Yes] を選択します。



引き続きアレイの作成を行う場合は、第4章 アレイの作成 を参照して下さい。
HostRAID 設定を変更した場合は、設定を有効にするために、SCSISelect Utility を
終了する際、Reboot 処理が実行されます。

3.4. メインメニューの表示について

[Configure/View HostRAID Settings] が選択されると、デバイスのスキャン完了後に次のようなメインメニューが表示されます。



The screenshot shows a terminal window titled "Adaptec < SCSISelect (TM) > Utility BUILD 41XXXX". The main menu displays "AIC-7902at slot 03 02:09:00" and options: "Create, Spare, Delete, Rebuild, Verify, Bootable". Below is a table with columns: ID, Type, Vendor, Product, Size, Status.

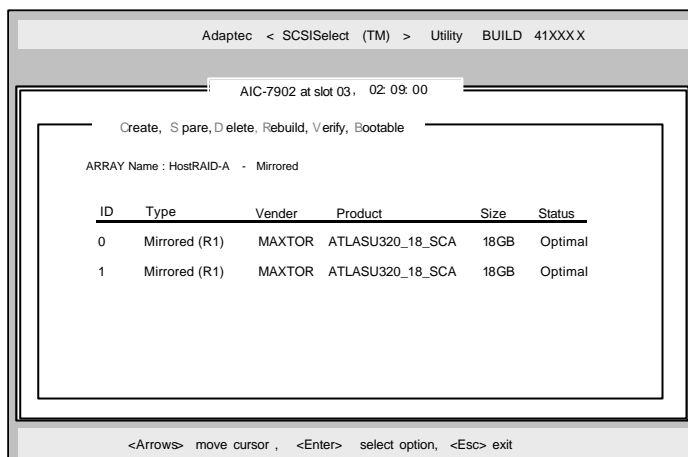
ID	Type	Vendor	Product	Size	Status
0	Mirrored (R1)	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	Optimal
1	Mirrored (R1)	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	Optimal

At the bottom, it shows navigation instructions: "<Arrows> move cursor, <Enter> select option, <Esc> exit".

メインメニューの表示

- ID - ハードディスクのSCSI ID番号、またはアレイのID番号を表示します。
- Type - アレイのRAIDレベル、利用可能なアレイを構成しないディスクを表示します。
 - Hard Drive - アレイを構成していない利用可能なハードディスク
 - Striped(R0) - RAID0で作成されたアレイ
 - Mirrored(R1) - RAID1で作成されたアレイ
 - Stripe/Mirror(R10) - RAID10で作成されたアレイ
 - Spare - Spare設定されたハードディスク
- Vendor - ハードディスクのベンダ、またはHostRAIDのベンダ(Adaptec)を表示します。
- Product - ハードディスクのモデル名、またはアレイの名前を表示します。
- Size - ハードディスクの容量、またはアレイの容量を表示します。
- Status - ハードディスク、またはアレイのステータスを表示します。
 - Free - アレイを構成していない利用可能なハードディスク
 - Optimal - アレイは正常な状態
 - Degraded - RAID1またはRAID10のハードディスクの1台が故障している状態
 - Dead - RAID0のハードディスクが1台以上故障している状態
RAID1または10のハードディスクが2台以上故障している状態
 - Building - アレイはBuildプロセス中の状態
 - Verify - アレイはVerifyプロセス中の状態
 - Rebuild - アレイはRebuildプロセス中の状態

メインメニューでアレイを選択すると、アレイを構成するハードディスクの詳細が表示されます。



アレイの詳細表示

ID - アレイを構成するハードディスクのSCSI ID番号

Type - アレイのRAIDレベルを表示します。

Striped(R0) - RAID0で作成されたアレイ

Mirrored(R1) - RAID1で作成されたアレイ

Stripe/Mirror(R10) - RAID10で作成されたアレイ

Vendor - ハードディスクのベンダを表示します。

Product - ハードディスクのモデル名を表示します。

Size - ハードディスクの容量を表示します。

Status - ハードディスクのステータスを表示します。

Optimal - ハードディスクは正常な状態

Degraded - ハードディスクは故障している状態

Failed - ハードディスクは故障している状態

Building - ハードディスクは現在Build対象

Verify - ハードディスクは現在Verify対象

Replaced - ハードディスクは現在Rebuild対象

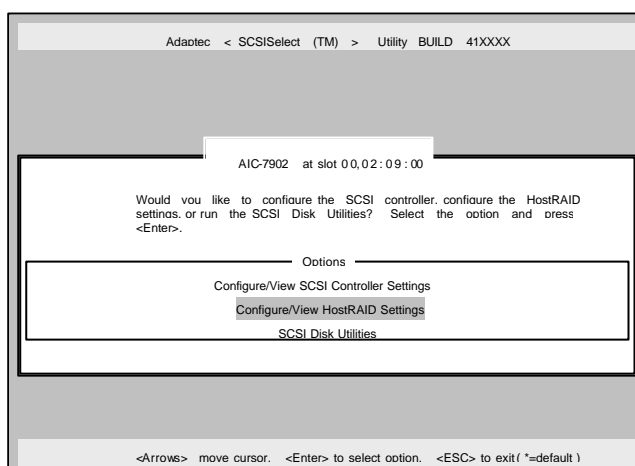
Missing - ハードディスクはコントローラから見えない状態

第4章 アレイの作成

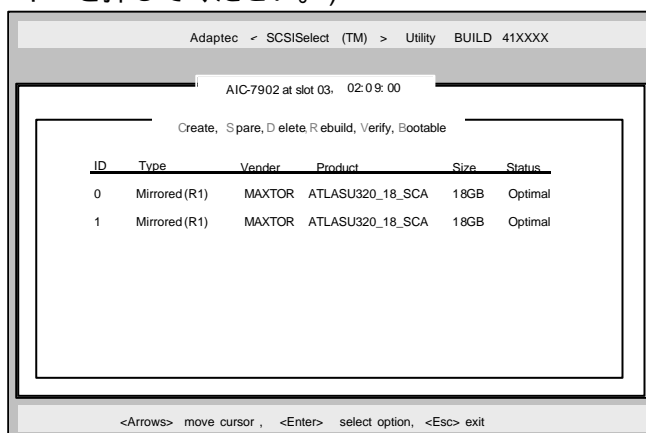
4.1. 事前確認

アレイを作成する前に、アレイを構成するためのハードディスクが接続されていることを確認してください。

- (1) SCSISelectUtilityを起動し、アレイを作成するチャンネルのOption画面から、[Configuration/View HostRAID Settings] を選択します。



- (2) メインメニューで、アレイを作成するために、<C>キーを押します。(コンソールリダイレクション時には一部文字が正常に表示されないことがありますが、作業には影響ありません。<C>キーを押してください。)



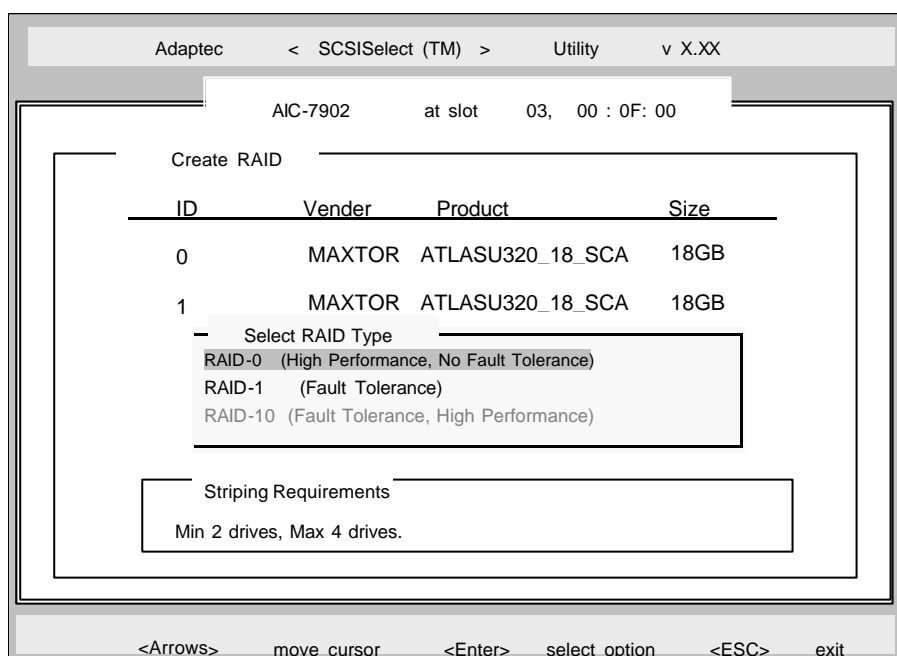
重要

アレイを作成するには少なくとも2台のハードディスクが必要です。
アレイを作成する際に、容量の異なるハードディスクを使用すると、容量の小さい方に
あわせてアレイの容量は設定されます。
本体でサポートしている以外のハードディスクを使用しないでください。
ハードディスクがすでにアレイ構成の一部になっている場合は、そのディスクは
選択できません。

- (3) [Select RAID Type] ウィンドウが開かれ、構築する RAID タイプを選択し、<Enter> キーを押します。

選択内容を強調表示すると、別ウィンドウが表示されて 作成に必要なディスクの最低および最大個数、またスペアの割り当てに関するメッセージが表示されます。

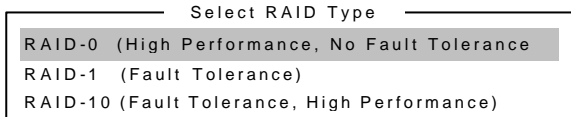
各RAIDの設定については、4.2~4.4章を参照してください。



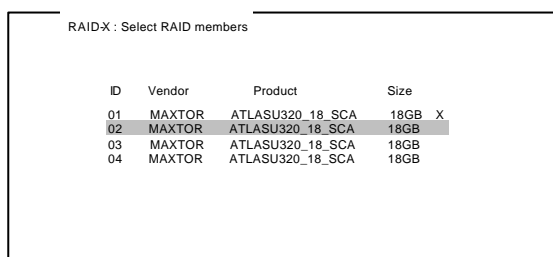
4.2. RAID 0 アレイの作成

RAID0アレイを作成するには、以下の手順に従います。

- (1) [Select RAID Type]ウィンドウで、[RAID-0] を選択します。



- (2) カーソルキーで切り替えながら使用するハードドライブをスペースバーで選択し、<Enter> キーを押します。選択されたハードドライブの横には [X] が表示されます。



- (3) [Select Strip Size] ウィンドウが表示されたら、[16kB]、[32kB]、[64kB] のうちいずれかを選択し、<Enter> キーを押します。
- (4) [Assign RAID Name] ウィンドウにて任意の RAID Name を入力します。
RAID Nameは、他のアレイと同じ名前にならないように注意してください。



重要 選択したハードドライブに、有効なパーティション情報またはブートブロックが検出された場合、警告メッセージが表示されます。アレイの作成を続ける場合は、[Yes] を選択し、作成を中止する場合は、[No] を選択してください。
間違ったハードドライブを使用した場合、データは復旧できませんので十分にご注意ください。

- (5) [Create Array?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、<Enter> キーを押します。
[No] を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。
- (6) [Are you sure?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、<Enter> キーを押します。
[No] を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。
- (7) [Build Completed] と表示されたら <Esc>キーでメインメニューに戻ります。
メインメニューに戻ったときに、作成したアレイのステータスが Optimal になっていることを確認してください。

4.3. RAID 1 アレイの作成

RAID1アレイを作成する方法は 2 つあります。

新しい RAID 1 アレイを作成する。

既存の単一ディスクのデータをもとに RAID 1 アレイに移行する。

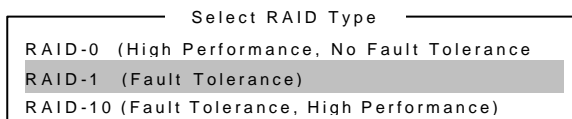
(マイグレーション)

既存の単一ハードディスクからRAID1を作成する方法をマイグレーションと呼びます。マイグレーションを実施する際は、ソースとなるハードディスクは必ず標準SCSI接続でブートディスクとしていたものをご使用下さい。

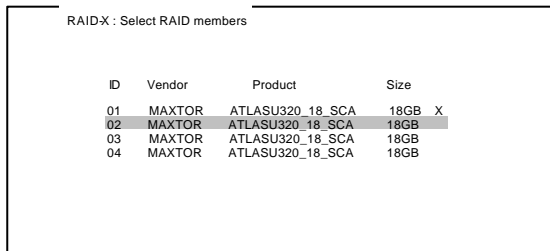
マイグレーションに関する詳細内容は、『HostRAID セットアップカード』を参照してください。

RAID1アレイを作成するには、以下の手順に従います。

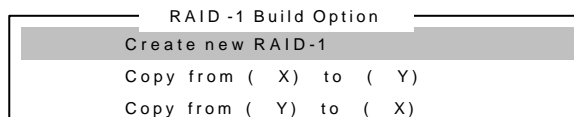
(1) [Select RAID Type]ウィンドウで、[RAID-1] を選択します。



(2) カーソルキーで切り替えながら使用するハードディスクをスペースバーで選択し、<Enter> キーを押します。選択されたハードディスクの横には [X] が表示されます。



(3) [RAID-1 Build Option] ウィンドウが表示されます。いずれかのオプションを選択し、<Enter> キーを押します。選択可能なオプションは次のとおりです。



Create New RAID-1 : デフォルトのオプションです。

Copy from (X) to (Y) : ID XのディスクからID Yのディスクにコピーします。

Copy from (Y) to (X) : ID YのディスクからID Xのディスクにコピーします。



重要

OSインストール済みのブートディスクをマイグレーションする場合は、『HostRAIDセットアップカード』を参照してください。

Copyの方向は絶対に間違わないください。間違ってもコピーした場合は、データの復旧はできません。

- (4) [Assign RAID Name] ウィンドウにて任意の RAID Name を入力します。RAID Nameは、他のアレイと同じ名前にならないように注意してください(半角15文字迄)。



重要

選択したハードディスクまたはCopyのターゲットディスクに、有効なパーティション情報またはブートブロックが検出された場合、警告メッセージが表示されます。アレイの作成を続ける場合は、[Yes] を選択し、作成を中止する場合は、[No] を選択してください。

間違ったハードディスクを使用した場合、または間違った方向へCopyした場合は、データは復旧できませんので十分にご注意ください。

- (5) [Create Array?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、<Enter> キーを押します。
[No] を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。
- (6) [Are you sure?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、<Enter> キーを押します。
[No] を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。
- (7) アレイが作成されると続いて、Buildが実行されます。[Driver Background Task Priority] ウィンドウが表示されますので、[High]、[Medium]、[Low]いずれかのオプションを選択し、<Enter> キーを押します。Buildが何パーセント完了したかを示すプログレスバーが表示されます。

Driver Background Task Priority	
High	- Builds fastest, high CPU usage
Medium	- Moderate speed, moderate CPU usage
Low	- Builds longest, low CPU usage



重要

Buildプロセスは必ず最後まで終了させてください。Buildの途中で <Esc> で処理を中断しないでください。

Build処理が完了しアレイのステータスがOptimalにならないと、OSからアレイが認識されず、またそのアレイにはOSのインストールもできません。

Driver Background Task Priority は、本ツールでは機能しません。どのPriorityを選択しても処理時間は同じになります。

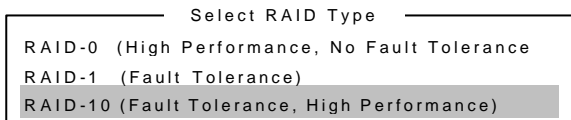
- (8) [Build Completed] と表示されたら <Esc>キーでメインメニューに戻ります。メインメニューに戻ったときに、作成したアレイのステータスがOptimalになっていることを確認してください。

この後、スペアデバイスを設定する場合は、第6章を参照してください。

4.4. RAID 10 アレイの作成

RAID10アレイを作成するには、以下の手順に従います。

- (1) [Select RAID Type] ウィンドウで、[RAID-10] を選択します。



- (2) カーソルキーで切り替えながら使用するハードディスクをスペースバーで選択し、<Enter> キーを押します。選択されたハードディスクの横には [X] が表示されます。

```

RAID-X: Select RAID members
ID  Vendor  Product  Size
01  MAXTOR  ATLASU320_18_SCA  18GB X
02  MAXTOR  ATLASU320_18_SCA  18GB
03  MAXTOR  ATLASU320_18_SCA  18GB
04  MAXTOR  ATLASU320_18_SCA  18GB

```

- (3) [Select Strip Size] ウィンドウが表示されたら、[16kB]、[32kB]、[64kB] のうちいずれかを選択し、<Enter> キーを押します。

- (4) [Assign RAID Name] ウィンドウにて任意の RAID Name を入力します。RAID Nameは、他のアレイと同じ名前にならないように注意してください。



重要

選択したハードディスクに、有効なパーティション情報またはブートブロックが検出された場合、警告メッセージが表示されます。アレイの作成を続ける場合は、[Yes] を選択し、作成を中止する場合は、[No] を選択してください。間違ったハードディスクを使用した場合、データは復旧できませんので十分にご注意ください。

- (5) [Create Array?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、<Enter> キーを押します。
[No] を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。
- (6) [Are you sure?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、<Enter> キーを押します。
[No] を選択するとアレイの作成作業は終了し、メインメニューに戻ります。

- (7) アレイが作成されると続いて、Buildが実行されます。[Driver Background Task Priority] ウィンドウが表示されますので、[High]、[Medium]、[Low]いずれかのオプションを選択し、<Enter> キーを押します。Buildが何パーセント完了したかを示すプログレスバーが表示されます。

Driver Background Task Priority	
High	- Builds fastest, high CPU usage
Medium	- Moderate speed, moderate CPU usage
Low	- Builds longest, low CPU usage



重要

Buildプロセスは必ず最後まで終了させてください。Buildの途中で <Esc> で処理を中断しないでください。

Build処理が完了しアレイのステータスがOptimalにならないと、OSからアレイが認識されず、またそのアレイにはOSのインストールもできません。

Driver Background Task Priority は、本ツールでは機能しません。どのPriorityを選択しても処理時間は同じになります。

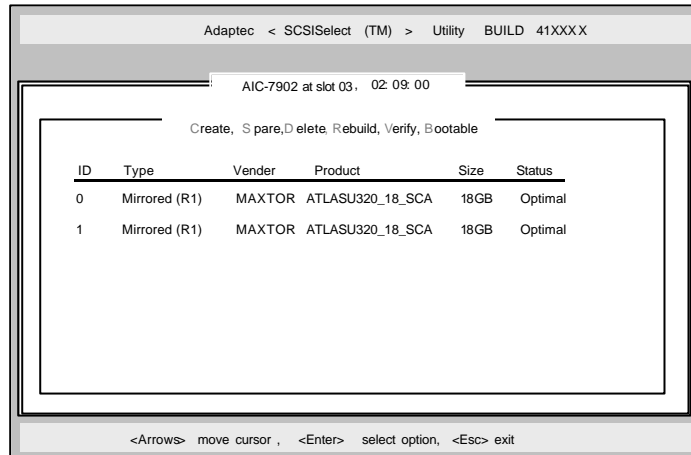
- (8) [Build Completed] と表示されたら <Esc>キーでメインメニューに戻ります。メインメニューに戻ったときに、作成したアレイのステータスがOptimalになっていることを確認してください。

この後、スペアディスクを設定する場合は、第6章を参照してください。

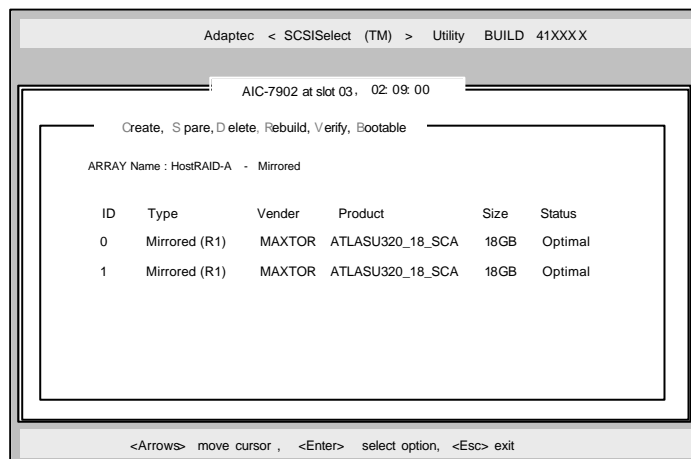
第5章 アレイの削除

アレイを削除するには、次の手順に従ってください。

- (1) メインメニューで、カーソルを移動して削除するアレイを選択し、<Enter> キーを押します。



- (2) 次の画面が表示されたら、アレイを削除するために <D>キーを押します。(コンソールリダイレクション時には一部文字が正常に表示されないことがありますが、作業には影響ありません。<D>キーを押してください。)



- (3) [Delete Array ?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し<Enter> キーを押します。[No] を選択するとアレイの削除は実施されずに、メインメニューに戻ります

- (4) [Deleting information] ウィンドウが表示されたら、パーティション/ブートブロックの情報を消去したいハードディスクまたは[None]を選択して、<Enter> キーを押します。[Deleting information] ウィンドウが表示されない場合は次に進みます。



重要

[Deleting information]で選択されたハードディスクはパーティションまたはブートブロックの情報が消去されます。

- (5) [Are you sure ?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、<Enter> キーを押します。[No] を選択するとアレイの削除は実施されずに、メインメニューに戻ります。



重要

アレイの削除を実行するとデータが消えますので、予めディスクのバックアップを行っておくことをお勧めします。

第6章 スペアディスクの作成

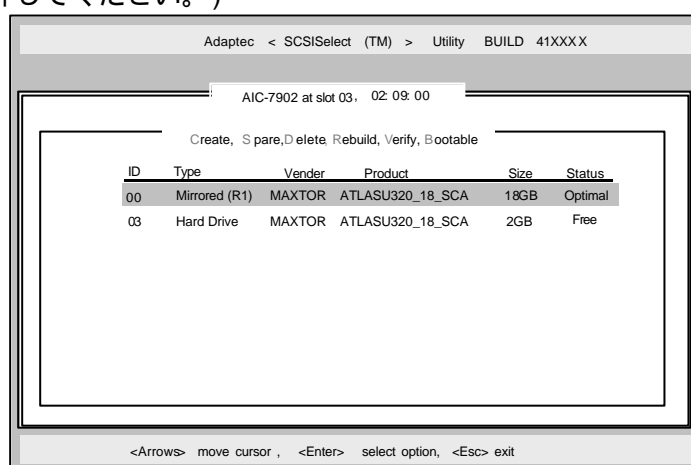
スペアディスクは、1チャンネルあたりにつき1台まで作成することができます。

スペアディスクは、RAID1とRAID10についてのみ有効です。

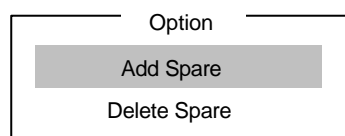
✓ チェック: スペアディスクのサイズはアレイを構成するハードディスク以上のサイズが必要です。アレイを構成するハードディスクのうち一番容量の小さいディスクが36GBで、スペアディスクが18GBの場合、スペアとして使用できません。

スペアディスクを作成するには、以下の手順に従います。

- (1) メインメニューで、スペアディスクを作成するために <S>キーを押します。(コンソールリダイレクション時には一部文字が正常に表示されないことがありますが、作業には影響ありません。<S>キーを押してください。)



- (2) 次のオプションが表示されたら、[Add Spare]を選択します。



- (3) スペア設定可能なハードディスクの一覧が表示されるので、スペアにするハードディスクを選択し<Enter> を押します。
- (4) [Are you sure ?] というメッセージが表示されたら、[Yes] を選択し、<Enter> キーを押します。
[No] を選択するとスペアディスクの設定は実施されず、メインメニューに戻ります。
- (5) メインメニューで選択したハードディスクの Typeが Spare に変更されていること、Statusが Optimalになっていること確認してください。

スペアディスクを解除する場合は、(2)のオプションのところ [Delete Spare] を選択する以外は、手順 (1)~(4)と同じです。

第7章 ブートプライオリティ指定

アレイにブートプライオリティを指定するためには、以下の手順に従います。

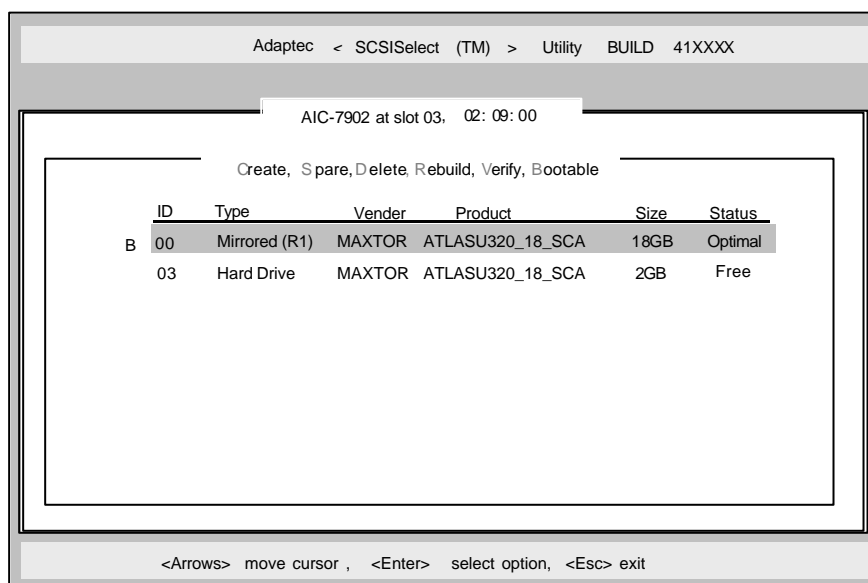
- (1) メインメニューで対象のアレイを選択し、<Enter> キーを押します。
- (2) アレイの詳細画面が表示されたら、 キーを押します。(コンソールリダイレクション時には一部文字が正常に表示されないことがあります。作業には影響ありません。キーを押してください。)
- (3) [Option] ウィンドウで、[Mark bootable]を選択し、<Enter> キーを押します。



チェック:

- この機能を使用することにより、SCSI ID のプライオリティに関係なく、指定したアレイにブートプライオリティが与えられます。
- ブートプライオリティについては、本体装置のBIOS 『Setup Utility』で設定してください。**本機能は特に使用する必要はありません。**
BIOS 『Setup Utility』に関しては本体装置のユーザーズガイドをご参照下さい

設定されたことを示す [B] が、ディスク ID の横に表示されます。



付録．トラブルシューティング

アレイを作成できない

Configure/View HostRAID Settings を正常に終了した後に、アレイの Status が Optimal 表示されていない場合は、再度設定しなおして下さい。

再設定した場合においても Optimal とならない場合は SCSI コントローラもしくはハードディスクの故障が考えられます。

本体添付のマニュアルを参照してハードディスクの交換または、マザーボードの交換を行ってください。

アレイの Build を中断してしまった場合もしくは Build 中に異常終了してしまった場合

次の手順に従って、アレイの Build を再開してください。

- (1) メインメニューで、Status が Building となっているアレイを選択する。
- (2) アレイの詳細画面になったら、<R>キーを押す。(コンソールリダイレクション時には一部文字が正常に表示されないことがあります。作業には影響ありません。<R>キーを押してください。)
- (3) [Driver Background Task Priority] ウィンドウで、いずれかのプライオリティを選択する。
- (4) 中断されたところから、Build が再開される。

マイグレーション中に異常終了してしまった場合

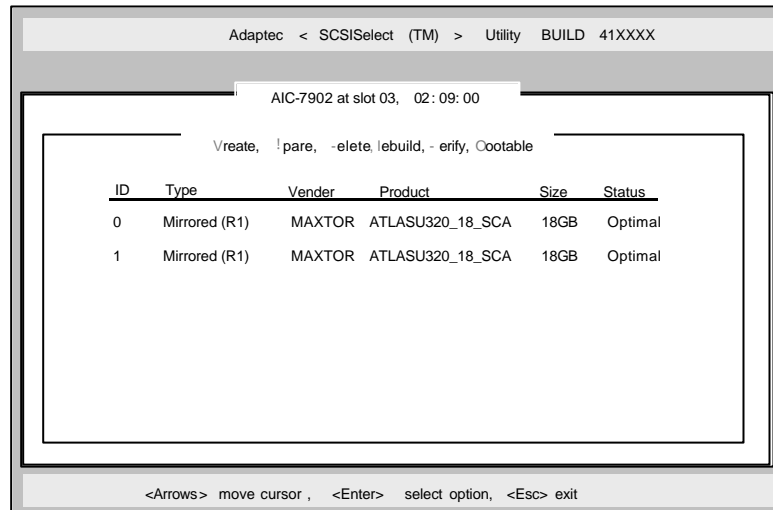
- ・ OS データをバックアップしていた場合：バックアップディスクからのコピーにより OS を復旧させてください。手順は項 4.3.RAID1 アレイの作成をご参照下さい。
- ・ OS データをバックアップしていなかった場合：復旧はできません。第 4 章を参照してアレイの新規作成を実施してください。

メニューの文字が正常に表示されない場合 (コンソールリダイレクション使用時)

コンソールリダイレクション使用時、"Configure/View HostRAID Settings"のメニュー表示が一部正常に表示されないことがあります。作業には影響ありません。

各メニュー (Create, Spare, Delete, Bootable) の詳細につきましては、4章、5章、6章、7章の各指示に従って作業してください。

< 表示例 >



The screenshot shows a terminal window with the following content:

```
Adaptec < SCSISelect (TM) > Utility BUILD 41XXXX
AIC-7902 at slot 03, 02:09:00
Vreate, Spare, Delete, Rebuild, Verify, Bootable
```

ID	Type	Vendor	Product	Size	Status
0	Mirrored (R1)	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	Optimal
1	Mirrored (R1)	MAXTOR	ATLASU320_18_SCA	18GB	Optimal

<Arrows> move cursor, <Enter> select option, <Esc> exit

HostRAID
SCSI *Select* Utility
操作説明書
856-122834-001

2003年 2月 初版

日 本 電 気 株 式 会 社
東京都港区芝五丁目7番1号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

© Adaptec Corporation 2003

© NEC Corporation 2003

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。